

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名 一般国道44号 尾幌糸魚沢道路 <small>おほろいといざわ</small>	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点 自：北海道厚岸郡厚岸町尾幌 <small>ほっかいどうあつけし あつけしちょうおほろ</small> 至：北海道厚岸郡厚岸町糸魚沢 <small>ほっかいどうあつけし あつけしちょういとざわ</small>				延長 24.7 km
事業概要 国道44号は、釧路市を起点とし、釧路町、厚岸町を經由し、根室市に至る幹線道路である。 尾幌糸魚沢道路（24.7 km）は、高速ネットワークの拡充により釧路圏と道央・十勝圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化、物流効率化等の支援、津波浸水被害等の災害時の救急活動、観光周遊性の向上等の支援を目的とした事業。				
R元年度事業化	R一年度都市計画決定 (R一年度変更)	R3年度用地補償着手	R3年度工事着手	
全体事業費	約650億円	事業進捗率 <small>(令和4年3月末時点)</small>	約4%	供用済延長 0.0 km
計画交通量	5,200～8,700台/日			
費用対効果 分析結果	B/C <small>(事業全体)</small> 1.3 <small>(1.3)</small> <small>(残事業)</small> 2.6 <small>(1.4)</small>	総費用 <small>(残事業)/事業全体</small> 686/6,383億円 事業費：575/5,862億円 維持管理費：104/446億円 更新費：7.8/75億円	総便益 <small>(残事業)/事業全体</small> 1,751/8,124億円 走行時間短縮便益：1,423/6,490億円 走行経費減少便益：274/1,359億円 交通事故減少便益：54/275億円	基準年 令和4年
感度分析の結果 事業全体及び残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=1.1～1.4（交通量±10%） 【残事業】交通量：B/C=2.2～2.9（交通量±10%） 事業費：B/C=1.3～1.3（事業費±10%） 事業費：B/C=2.4～2.8（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.3～1.3（事業期間±20%） 事業期間：B/C=2.5～2.6（事業期間±20%）				
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ① 災害時の輸送ルート強化 ・災害発生時の避難場所の確保や救急活動及び被災地外からの救援物資等の輸送ルートの強化が期待される。 ② 重要拠点港湾釧路港の流通利便性向上 ・釧路港～十勝方面や釧路港～根室市間の所要時間が短縮されるなど、釧路港の取扱貨物の流通利便性向上が期待される。 ③ 主要な観光地への利便性向上 ・道内外からの所要時間が短縮され、釧路地域の更なる観光活性化が期待される。 ④ 水産品の流通利便性向上 ・道内各地のみならず苫小牧港から全国各地へ出荷される水産品の流通利便性向上が期待される。 ⑤ 救急搬送の安定性向上 ・釧路地域の市町村から釧路市への救急搬送時間の短縮や、血液製剤の安定した輸送ルートの確保が可能となり、救急搬送及び血液製剤輸送の安定性向上が期待される。				
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 釧路市など1市10町1村の首長等で構成される「北海道横断自動車道釧路地区早期建設促進期成会」等より整備促進の要望を受けている。 知事の意見： 「一般国道44号 尾幌糸魚沢道路」事業を「継続」とした「対応方針（原案）」案について、異議はありません。 当該事業は、道央・十勝・釧路・根室圏の連絡機能の強化による地域間交流の拡大や、物流の効率化、道路交通の安全性の向上が図られ、経済・社会活動の活性化や道民の安全・安心な暮らしの確保に寄与することから、早期供用をお願いいたします。 なお、事業の実施に当たっては、周辺環境への影響を最小限にとどめるとともに、徹底したコスト削減を図り、引き続き、効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。				

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- 平成15年 6月 北海道横断自動車道根室線 池田IC～本別IC開通
- 平成17年10月 釧路市・阿寒町・音別町が合併
- 平成21年11月 北海道横断自動車道根室線 本別IC～浦幌IC開通
- 平成23年 5月 釧路港 国際バルク戦略港湾（穀物）に選定
- 平成25年12月 一般国道38号 釧路新道 全線開通（暫定2車線含む）
- 平成27年 3月 北海道横断自動車道根室線 浦幌IC～白糠IC開通
- 平成27年 4月 釧路市・弟子屈町の「水のカムイ観光圏」が観光圏に認定
- 平成27年 6月 道東地域が広域観光周遊ルート（アジアの宝悠久の自然美への道ひがし北・海・道）に認定
- 平成28年 1月 釧路市が観光立国ショーケースに認定
- 平成28年 2月 釧路港 特定貨物輸入拠点港湾（穀物）に指定
- 平成28年 3月 北海道横断自動車道根室線 白糠IC～阿寒IC開通
- 平成28年 3月 一般国道38・44号 釧路外環状道路 釧路西IC～釧路東IC開通
- 平成28年 7月 「国立公園満喫プロジェクト」に阿寒国立公園（阿寒摩周国立公園）が選定
- 平成29年 8月 「阿寒国立公園」が「阿寒摩周国立公園」へ名称変更
- 平成30年 3月 北海道内7空港特定運営事業等実施方針策定
- 平成31年 3月 一般国道38・44号 釧路外環状道路 釧路東IC～釧路別保IC開通
- 平成31年 3月 一般国道272号 上別保道路 全線開通
- 平成31年 3月 釧路港 国際物流ターミナル運営開始
- 令和元年 8月 北海道内国管理4空港特定運営事業等基本協定書締結
- 令和2年 1月 北海道内7空港民間運営開始
- 令和2年 3月 一般国道44号 根室道路 全線開通

事業の進捗状況、残事業の内容等

令和元年度に事業化して、用地進捗率約4%、事業進捗率約4%となっている。

（令和4年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造、工法等の変更は無いが、引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性に変化は無く、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



凡 例	
	再評価区間



※ B/Cの上段は本別JCT～根室ICを対象とした場合、下段（ ）書きの値は評価区間を対象にした場合の費用便益分析結果。

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。